

CNTマスタターバッチ拡販

電磁波対策 電子・車部品に的

森六ケミカルズ

森六ケミカルズは、高分散カーボンナノチューブ(CNT)マスタターバッチの用途展開を強化する。同材を樹脂に練り込むことで電磁波ノイズ対策が可能になるとを生かし、電子部品および自動車部品市場への提案・販売を促進していく考えだ。さらに同材のシリコンゴムへの添加によるウェアラブル機器への活用を想定しており、これによる医療関連分野の開拓を計画している。



へのサンプル供給を実施しており、顧客サイドでの評価が始まっている。電磁波ノイズの遮断・反射に寄与する材料として電子部品、自動車部品メーカーなどが関心を寄せ、今後電磁波ノイズ対策用として既存の鉄やアルミ、ステンレスからの置き換えが見込まれている。

さらに同社が新たな市場として見込む医療関連分野に関しては、同社のCNTマスタターバッチをシリコンゴムに添加することで、従来製品よりも柔らかく柔軟性のある導電性ゴムを実現できるようとする。ウェアラブル機器などへの利用を見込んでおり、その材料としての供給を計画している。

CNTマスタターバッチには、低価格だが毛玉はさまり、分散性に悪く、そのままだと導電性や熱伝導性、フレキシブル性、電磁波シールド、電磁波吸収などの機能を付与できない特徴としている。

森六ケミカルズは、ハイトポシ葉の片野ケミカルス(埼玉県)と連携し、多層の高分散CNTマスタターバッチの研究・開発を行っている。

CNTマスタターバッチを使用したフレートが加わった。これまではポリカーボネート(PC)にCNTマスタターバッチを添加する特徴が異なるものの不良合があったが、独自の分散技術によってその課題を解決している。

現在、回マスタターバッチ、回製は樹脂やフィルム、ゴムなどのメーカー